

7. 防災指針

本町は、野辺地川及び枇杷野川が町の中央を流れており、洪水・浸水のリスクがあります。また、陸奥湾に面していることによる津波、市街地縁辺部の土砂災害等の災害の危険性もあります。本町の地理的特性等から形成されているコンパクトな市街地を今後も維持し、全ての町民が安全に安心して暮らし続けるためには、都市計画の目的として自然災害による被害の抑止・軽減を明確に位置づけた上で、災害リスクの評価に基づく、各種防災施設の整備や避難所の整備、避難路の適切な整備、災害を考慮した土地利用、居住者の安全な土地への居住誘導等の対策が必要です。

7-1. 防災指針の基本的な考え方

防災指針は、以下の考え方に基づき設定します。

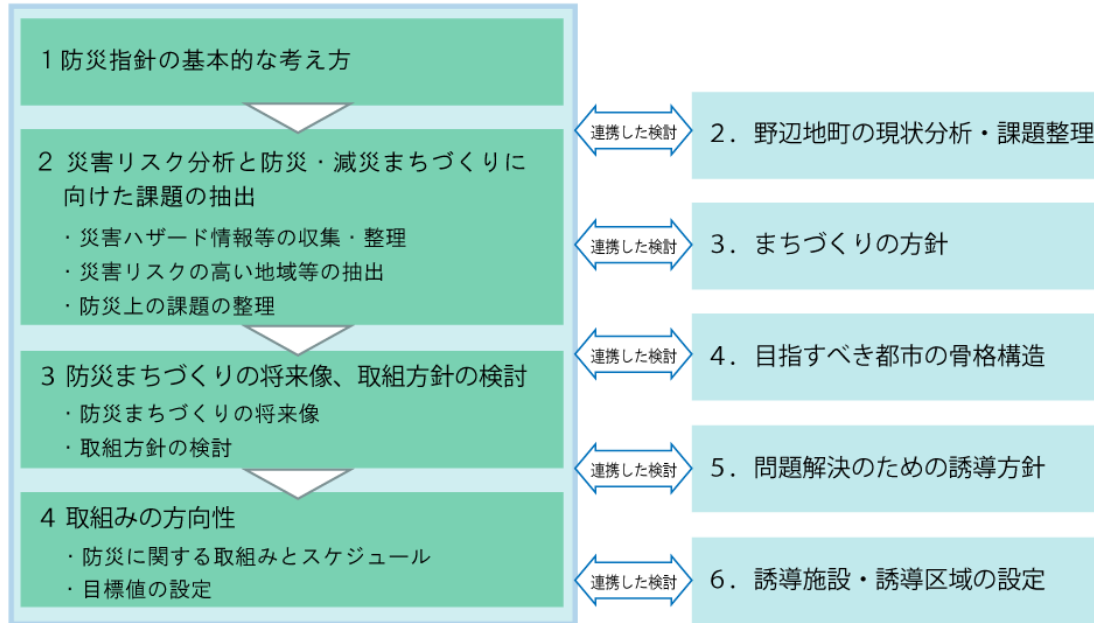
表 42 防災指針の考え方

都市計画運用指針	・防災指針は、居住や都市機能の誘導を図る上で必要となる都市の防災に関する機能の確保を図るための指針であり、当該指針に基づく具体的な取り組みと併せて立地適正化計画に定めるものである。 ・様々な災害のうち、洪水、雨水出水、津波、高潮による浸水エリアは広範囲に及び、既に市街地が形成されていることも多いことから、この範囲を居住誘導区域から全て除くことは現実的に困難であることも想定される。また、地震については、影響の範囲や程度を即地的に定め、居住誘導区域から除外を行うことに限界もある。このため、居住誘導区域における災害リスクをできる限り回避あるいは低減させるため、必要な防災、減災対策を計画的に実施していくことが求められる。 ・立地適正化計画においては、災害リスクを踏まえた課題を抽出し、都市の防災に関する機能の確保のため、防災指針を定めるとともに、この方針に基づく具体的な取り組みを位置づけることとしている。
立地適正化計画	・近年、特に水災害については頻繁、激甚化の傾向を見せており、防災まちづくりの検討においては、洪水（外水氾濫）、雨水出水（内水）、津波、高潮、土砂災害などの災害要因ごとに検討を行うことが必要であるとともに、災害が同時に発生することによる被害の拡大等も想定し、これらの災害を総合的に検討する必要があること。 ・浸水するエリアの広がり、浸水の深さ、浸水継続時間等は、設定するハザード情報の設定条件（降雨の規模等）や治水事業等のハード対策の進捗状況等により異なるため、これらの条件やハード対策等の現状及び将来の見通し等を踏まえた上でのリスク分析が必要となること。

7-1-1. 防災指針の設定フロー

防災指針の基本的な考え方を踏まえ、防災指針を次のフローにより設定します。

図 129 防災指針の設定フロー



7-2. 災害リスク分析と防災・減災まちづくりに向けた課題の抽出

7-2-1. 災害ハザード情報等の収集・整理

災害ハザード情報は、以下より収集し、災害リスクを整理します。

■土砂災害ハザードエリア情報

○土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域

野辺地町洪水・土砂災害ハザードマップ

○急傾斜地崩壊危険区域

国土数値情報

■水災害ハザードエリア情報

○洪水浸水想定区域(想定最大規模)(2日間の雨量603mm)、河岸浸食

野辺地町洪水・土砂災害ハザードマップ

○津波浸水想定区域

野辺地町津波ハザードマップ

■地形

国土地理院 淡色地図

国土地理院 自分で作る色別標高図

■建物立地状況

野辺地町都市計画基礎調査(平成31(2019)年3月)

(1) 広域の災害リスクの分析

- 土砂災害リスクは町南側エリアに急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域が見られます。馬門エリアでは馬門スキー場や柴崎地区健康レクリエーション施設周辺が土砂災害リスクの高い箇所となっています。
- 水害リスクは、野辺地川を中心に町北側エリアと沿岸部に津波浸水想定区域が指定されています。町を南北に通っている野辺地川、枇杷野川沿いに洪水浸水想定区域（想定最大規模）及び河岸浸食が指定されています。

図 130 エリア区分

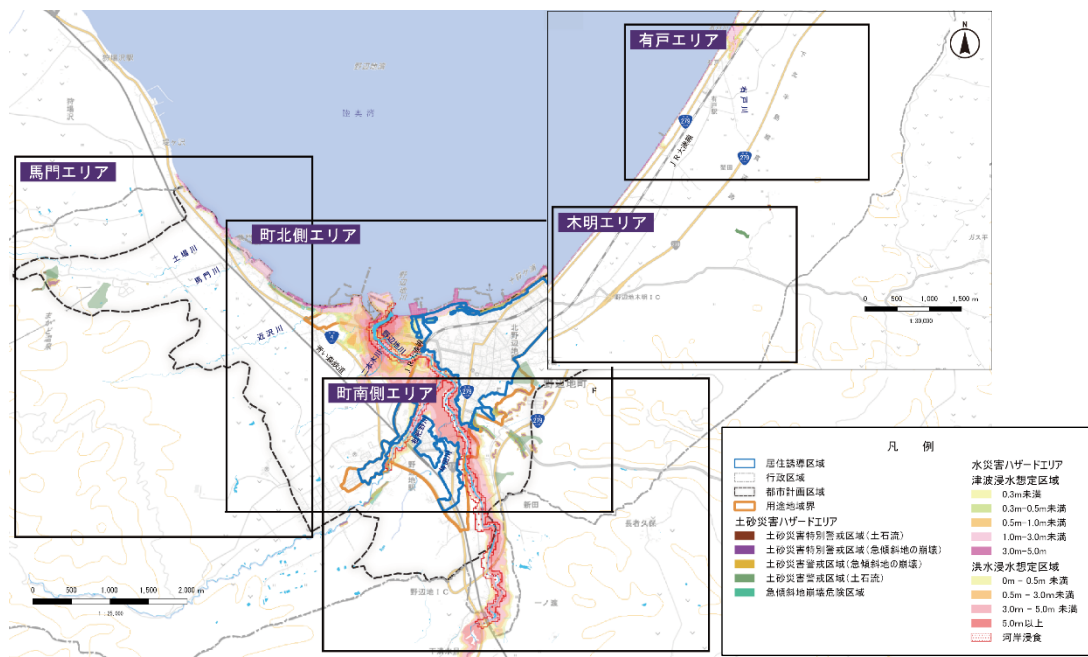
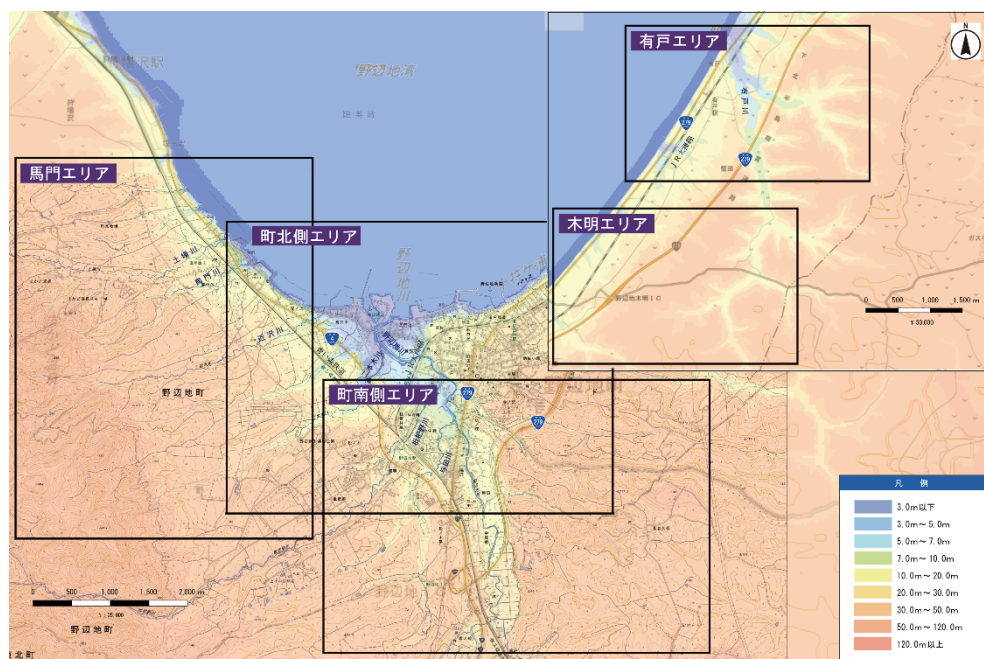


図 131 野辺地町の地形



(2) 各エリアごとの災害リスクの分析

①馬門エリア

- 馬門スキー場や柴崎地区健康レクリエーション施設周辺が土石流の土砂災害リスクの高いエリアになっています。
- 沿岸部は急傾斜地の崩壊による土砂災害警戒区域が指定されています。過去には、台風による浸水被害が発生しています。(平成28(2016)年台風9号)
- 津波浸水想定区域が沿岸部に指定されています。

図 132 馬門エリアの災害リスク



②有戸エリア

- 土砂災害リスクの指定はありませんが、過去に台風による浸水被害が発生しています。(平成28(2016)年台風10号)
- 水害リスクは沿岸部から有戸川沿い周辺地区に津波浸水想定区域が指定されています。

図 133 有戸エリアの災害リスク



③木明エリア

- 有戸川周辺に土石流の土砂災害警戒区域及び、急傾斜地の崩壊による土砂災害特別警戒区域が指定されています。
- 沿岸部に津波浸水想定区域が指定されています。

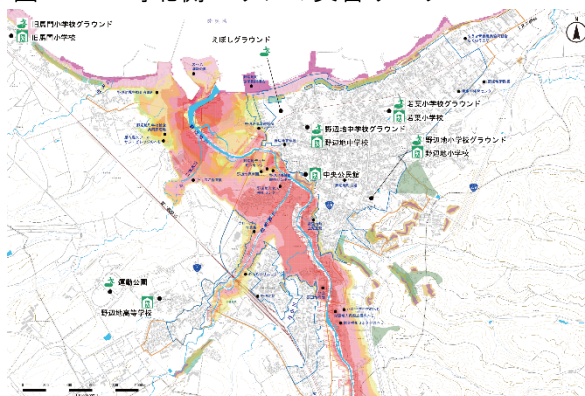
図 134 木明エリアの災害リスク



④町北側エリア

- 土砂災害リスクは陸奥湾沿岸部に急傾斜地の崩壊による警戒区域が指定されています。また、愛宕公園周辺は急傾斜地の崩壊による土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、及び土石流による土砂災害警戒区域が指定されています。
- 陸奥湾沿岸部と野辺地川沿いに津波浸水想定区域が指定されています。
- 野辺地川の洪水浸水想定区域が広範囲に広がっています。浸水深5.0m以上のエリアも存在します。

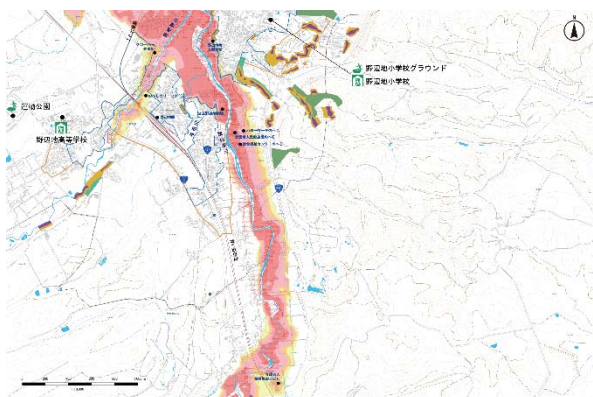
図 135 町北側エリアの災害リスク



⑤町南側エリア

- 野辺地川沿いに洪水浸水想定区域が広がっています。

図 136 町南側エリアの災害リスク



(3) 用途地域内の災害リスク分析

- ・土砂災害リスクは、急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域が散在しています。
- ・水害リスクは、野辺地川及び枇杷野川沿いに洪水浸水想定区域及び河岸浸食が指定されています。津波浸水想定区域は沿岸部に指定されています。

図 137 土砂災害ハザードエリア

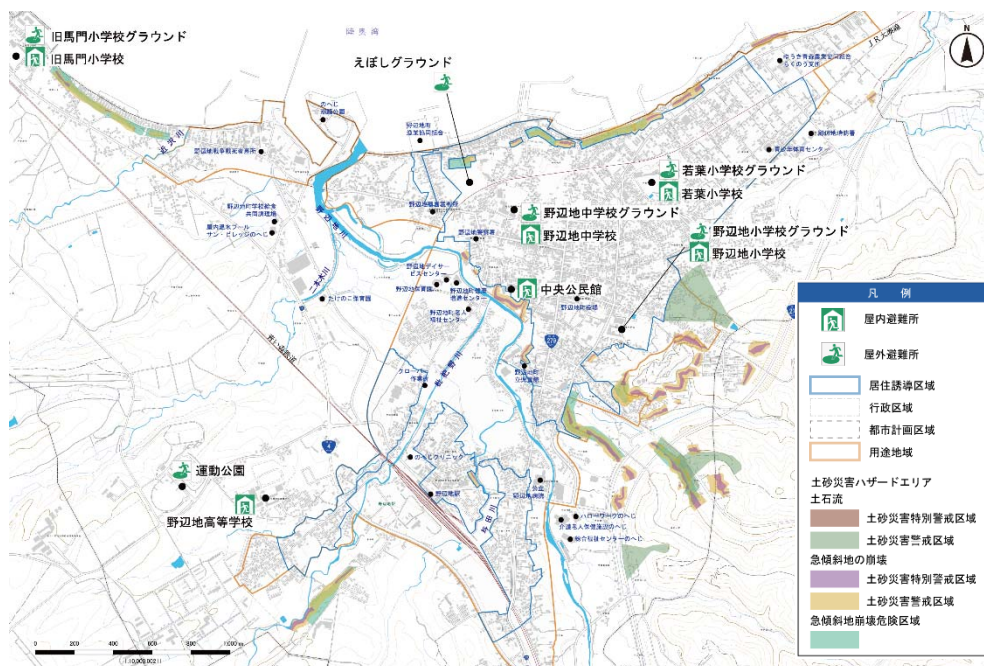
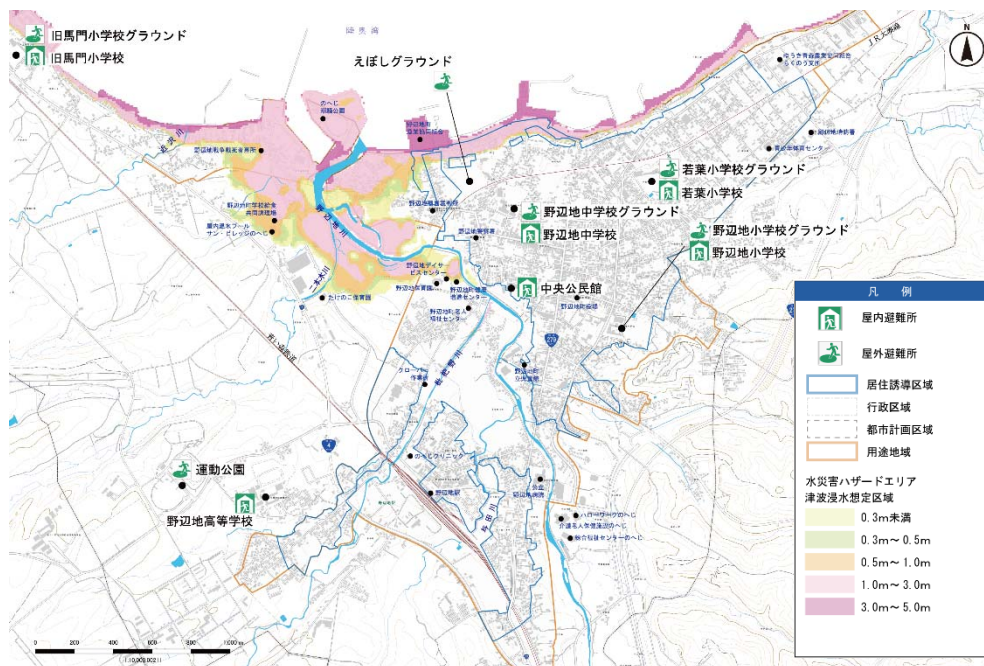


図 138 津波浸水想定区域



旧馬門小学校グラウンド
旧馬門小学校

えぼしグラウンド

若葉小学校グラウンド
若葉小学校

野辺地中学校グラウンド
野辺地中学校

野辺地小学校グラウンド
野辺地小学校

中央公民館

運動公園
野辺地高等学校

凡例

- 屋内避難所
- 屋外避難所
- 居住誘導区域
- 行政区域
- 都市計画区域
- 用途地域
- 水災害ハザードエリア
洪水浸水想定区域
- 0m ~ 0.5m
- 0.5 ~ 3.0m
- 3.0m ~ 5.0m
- 5.0m以上
- 河岸浸食

(1) 土砂災害ハザードエリア／洪水浸水想定区域／建物現況での分析

洪水浸水想定区域が設定されている地域に、住宅が密集している地域があります。また、複数の高齢者福祉施設、医療施設、保育施設も含まれています。

旧馬門小学校グラウンド
旧馬門小学校
えぼしグラウンド
野辺地漁港
大南ヶ浦
野辺地
島井平
若葉小学校グラウンド
若葉小学校
野辺地中学校グラウンド
野辺地中学校
中央公民館
野辺地小学校グラウンド
野辺地小学校
運動公園
松ノ木
野辺地高等学校
根柢野
新田

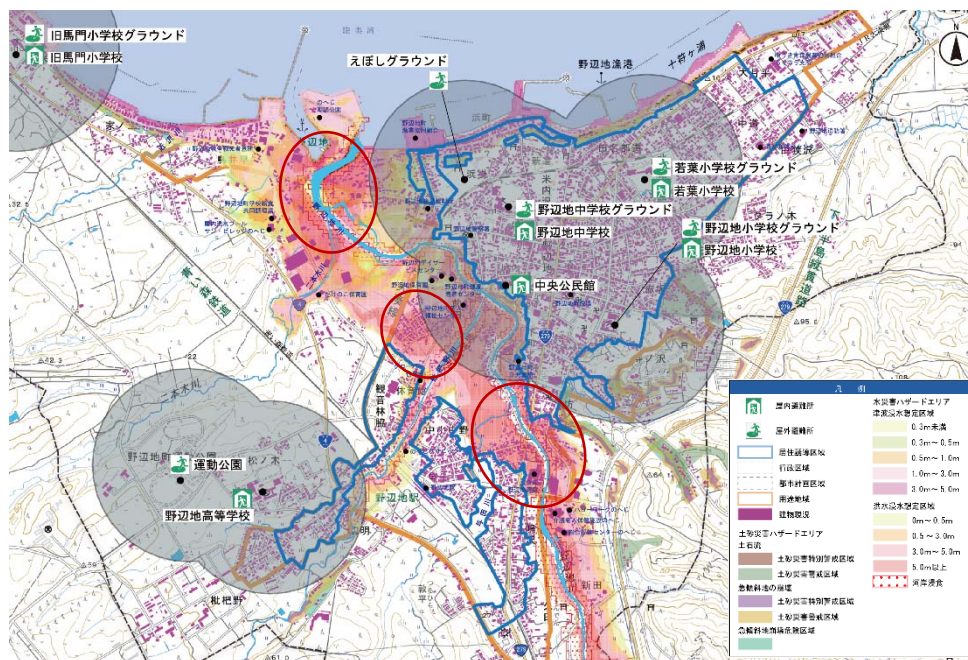
凡例

- 屋内避難所
- 屋外避難所
- 居住誘導区域
- 行政区域
- 都市計画区域
- 用途地域
- 建物現況
- 土砂災害ハザードエリア
- 土石流
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 急傾斜地の崩壊
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 急傾斜地崩壊危険区域
- 水災害ハザードエリア
- 洪水浸水想定区域
- 0m ~ 0.5m
- 0.5 ~ 3.0m
- 3.0m ~ 5.0m
- 5.0m以上
- 河岸浸食

(2) 災害危険箇所／建物現況／指定避難所から直線半径500m

洪水浸水想定区域に指定されている浸水深3.0m以上の地域に、指定避難所までの直線距離が500m以上の場所があり、洪水浸水発生時に災害リスクが高いことから、災害発生時には早期に避難が必要となります。

図 141 災害危険箇所／建物現況／指定避難所から直線半径 500m分析



7-2-3. 防災上の課題の整理

災害情報等の分析内容から、防災上の課題となる点は次のとおりです。

図 142 防災上の課題の整理

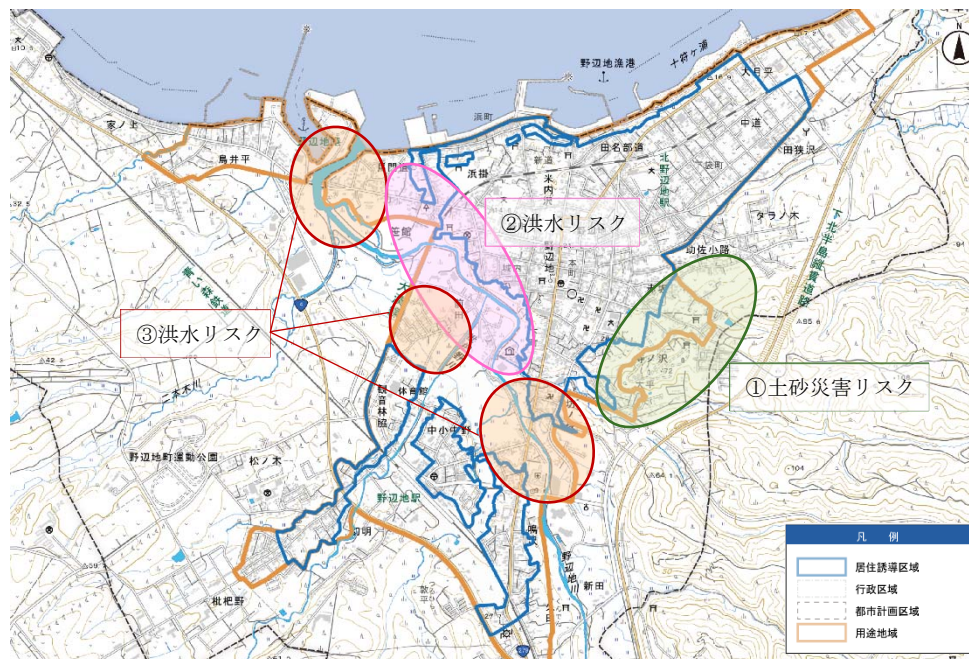


表 43 防災上の課題の整理

No	災害	課題
①	土砂災害	土砂災害リスクエリアに、住宅が立ち並んでいるところがあります。
②	洪水	洪水リスクエリアに、住宅や高齢者施設、保育施設等があります。
③	洪水	洪水リスクエリアの近くは浸水のおそれがあり、指定避難所を設けることができないため、避難時に危険が伴います。

7-3. 防災まちづくりの将来像、取り組み方針の検討

7-3-1. 防災まちづくりの将来像

現在のコンパクトな市街地のなかで、様々な災害リスクに対応し、住み続けることができる生活環境への再編、維持することを目標として、防災まちづくりの将来像を次のようにします。

まちづくりの将来像 「安全で強靱な地域を育み守るまちづくり」

7-3-2. 取り組み方針

(1) 野辺地町流域治水プロジェクトの取り組み

図 143 野辺地町流域治水プロジェクトの取り組み



(2) 防災上の課題に対する取り組み

図 144 防災上の課題に対する取り組み

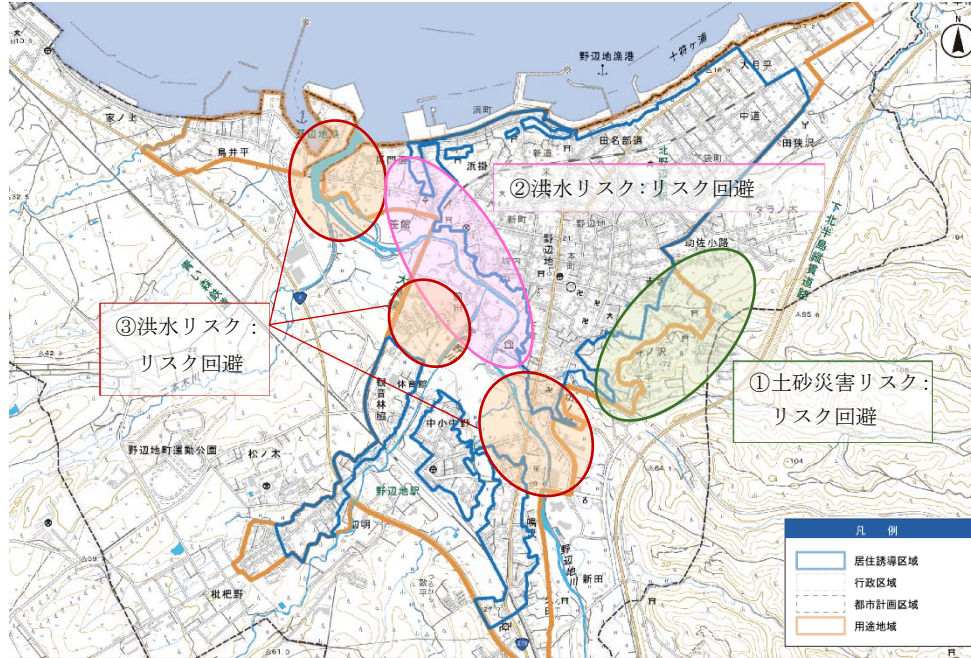


表 44 防災上の課題に対する取り組み

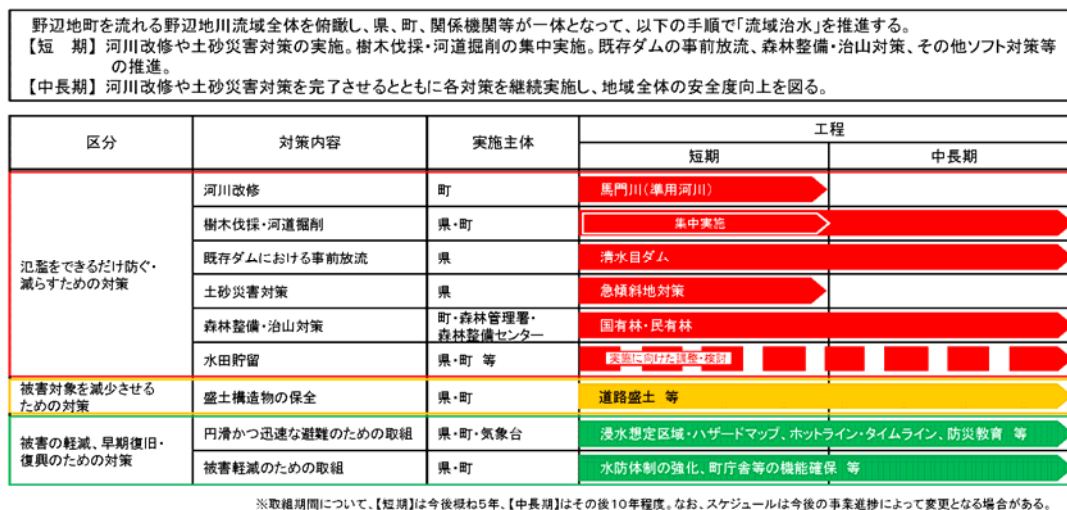
No	災害	課題	低減／回避	方針
①	土砂災害	住宅に土砂災害のリスクがある	リスクの回避	誘導区域には設定せず、居住の移転を促進する。
②	洪水	住宅や生活に必要な施設にリスクがある	リスクの回避	誘導区域には設定せず、避難計画や備蓄を強化する。
③	洪水	近くに指定避難所がない	リスクの回避	誘導区域には設定せず、避難計画や備蓄を強化する。

7-4. 取り組みの方向性

7-4-1. 防災に関する取り組みとスケジュール

(1) 野辺地町流域治水プロジェクトのスケジュール

図 145 野辺地町流域治水プロジェクトのスケジュール



(2) 防災上の課題に対するスケジュール

表 45 防災上の課題に対するスケジュール

No	リスク対策	対策内容	実施主体	実施時期の目標		
				短期 (5年)	中期 (10年)	長期 (20年)
①	回避	立地誘導	防災管財課			
②	回避	避難所運営マニュアルの作成	防災管財課			
③	回避	指定緊急避難場所及び指定避難所の指定	防災管財課			

7-4-2. 目標値の設定

本計画における防災指針の目標値は以下のように設定します。

表 46 目標値の設定

No	目標指標	指標の定義	基準値	目標値
①	土砂災害ハザードエリアに立地する建物戸数	用途地域内の土砂災害ハザードエリア（レッドゾーン）における建物戸数	22 戸 (2022 年)	0 戸 (2043 年)
②	土砂災害ハザードエリアに立地する建物戸数	用途地域内の土砂災害ハザードエリア（イエローゾーン）における建物戸数	新築の規制	0 戸 (2043 年)
③	避難所運営マニュアルの運用	避難所運営マニュアルによる運営訓練の実施回数	未実施 (2022 年)	年 1 回開催 (2028 年)
④	指定緊急避難場所及び指定避難所の指定	指定緊急避難場所及び指定避難所の指定数	8 箇所 (2022 年)	維持 (2033 年)